



本の源流再発見

弘道館

茨城県水戸市 水戸藩の学問・教育遺産群



日本遺産の「近世日本の教育遺産群」は、茨城県水戸市、栃木県足利市、岡山県備前市、大分県日田市の4地域で構成されています。茨城県水戸市にある関連文化財は、日本最大規模の藩校「弘道館」、学業休息の庭園「偕楽園」、大日本史が編纂された「彰考館跡」、私塾「日新塾跡」です。

File 1

現代まで連綿と続く学びの心

今号から、日本各地の歴史や文化、自然や風土を紹介する新連載をスタートします。第1回でご紹介するのは、日本遺産の一つ「近世日本の教育遺産群」に登録された弘道館などがある茨城県水戸市です。

弘道館は、水戸藩の第9代藩主 徳川斉昭なりあきが1841年に創設した当時日本最大規模の藩校です。建物の多くを1868年の藩内抗争で消失しましたが、幸い正門と正庁1、至善堂2は創建当時のまま残っており、いずれも国の重要文化財に指定されています。

正庁と至善堂は棟続きの大きく立派

な建物ですが、2011年の東日本大震災の際には、漆喰しっくいの壁が崩れたり、屋根瓦がずり落ちたりしました。そのため、2014年3月まで耐震補強を含めた大規模な修理が行われました。その際、来校した藩主が滞在した2室について、床下約35cmのところにもう1枚の床が貼られていることが新たにわかりました。これは、寒さと床下からの攻撃を防ぐためのものだと推察されています。限られた資材や技術力で、藩主の健康や安全を守ろうとした先人の知恵が感じられます。

弘道館からほど近い丘の上にある



のは、日本三名園の一つ偕楽園です。偕楽園も斉昭公が造園したもので、文武修行の合間の休息の場として構想されました。偕楽園の代名詞ともいえる梅は、春先に清らかな花を咲かせ、その実は非常食にもなり、好文(学問を好む)木という異名も持つことから、斉昭公が植林を奨励しました。早春には、約



▲ 偕楽園

金沢の兼六園、岡山の後楽園とならぶ「日本三名園」の一つ。弓の材料とするために徳川斉昭が京都男山の竹を移植した孟宗竹林も知られています



▲ 水戸市水道低区配水塔

良質な水道水を下市地区の市民に供給するため、1932年につくられた配水塔。1985年には近代水道百選にも選ばれています



▲ 弘道館

旧水戸藩の藩校である弘道館。斉昭公が推進した藩政改革の重要施策の一つとして開設され、入学は15歳からで卒業はなかったといわれています



▲ 佐川文庫

「僕の好きな本や音楽を集めて『佐川文庫』として一般に公開したい」という氏の遺志を受けて開設されました

100品種、3,000本に咲く梅の花が、多くの人々の目を楽しませています。

園内から千波湖を望む屋上に建つ好文亭は斉昭公の別邸として建てられ、^{ぶんじんぼっかく}文人墨客や家臣などと詩歌や養老の会などを催しました。残念ながら1945年の空襲で全焼しましたが、55年から3年をかけて復元されています。3階建ての好文亭からの眺めはすばらしく、一見の価値あります。

このように学問を愛する風土は現在も生き続けています。その一つが2000年に開館した佐川文庫です。元水戸市長の故佐川^{かずのぶ}一信氏のメモリアル

ホールで、同氏が残した約3万冊の蔵書と1万枚のクラシックCDを中心に書籍・CDの閲覧・貸し出しを行っています。サロンコンサートができる美しいホールもあり、学問や芸術を愛する土地の力を感じました。

※1 藩主の臨席のもと、ここで大試験や諸儀式が行われた
 ※2 藩主の休息所や徳川慶喜をはじめとする諸公子の勉学の間

ココに注目

水戸市森林公園内にある「森のシェパード館」では、珍しいヤギ乳のチーズを製造・販売しています。牛乳のチーズやスイーツも。

日立グループ事業所紹介

今回訪れた水戸市の近くに日立製作所 水戸事業所があります。おもに昇降機や鉄道車両の制御機器など、都市・交通分野に関する製品を製造しており、50階建てのビルとほぼ同じ高さのエレベーター研究塔「G1 TOWER」もあります。

株式会社 日立製作所 水戸事業所 茨城県ひたちなか市市毛1070番地
<http://www.hitachi.co.jp/>